

臨床実習Ⅰ	冠・橋義歯補綴学	[実習] 第5学年 前後期 必修
-------	----------	------------------

《担当者名》歯科クリニック
 ○教授／會田 英紀 aita@ 准教授／広瀬 由紀人 yukito@ 講師／仲西 康裕 nakanisi@
 助教／仲西 和代 kdontics@ 助教／山中 大寛 masahiro-y@

大学病院
 教授／舞田 健夫 tmaida@ 教授／疋田 一洋 hikita@ 講師／田村 誠 mtamura@
 助教／神成 克映 cannari@ 助教／煙山 修平 shuhei-0912@

【概 要】
 診療参加型実習、クラウン・ブリッジの支台歯形成のシミュレーション実習及びインプラントの上部構造の製作などを通して、クラウンブリッジに係る臨床手技を習得する。
 実際の要領として、前半は見学実習とシミュレーション実習で基礎的な知識と技術・態度を身につけ、後半は実践的な診療参加型実習を行い、実際の患者に触れることで歯科医師として必要な基本手技と教養を身につける。

【学修目標】
 DR11を使用したシミュレーション実習と診療参加型実習を行うことで、簡単な処置ができることを目標とする。

- ☆ DR11で保存処置後からクラウンの装着までの術式の流れを習得する。
- ☆ DR11でクラウンや少数歯欠損のブリッジの支台歯形成をできるようにする。
- ☆ 診療見学で患者に対する術者の対応の仕方をよく観察し、実際の症例を通して検査や診断・治療手技の方法を学びとる。
- ☆ 簡単な症例に対して検査と診断、処置方針を立案できるようになる。
- ☆ 診療参加型実習の水準Ⅰに該当する①簡単な支台歯形成ができる、②平行関係に問題の少ない橋義歯の支台歯形成ができる、③固定性欠損補綴の処置ができる、などを実際の患者に対して実施する。

【学修内容】			
回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	前期 ◎〈冠・橋義歯学概論〉	● 冠・橋義歯補綴学の意義と目的、さらに、歯科補綴学の歴史やクラウンブリッジの分類などについて、その体系を理解する。 F-3-4)-(1)-(①), F-3-4)-(1)-(②), F-3-4)-(2)-(①), F-3-4)-(2)-(②), F-3-4)-(2)-(③)	広瀬 由紀人
2	◎〈臨床実習の説明〉	● 臨床実習のオリエンテーション	広瀬 由紀人
3	◎〈診療参加型臨床実習〉	● 診療参加型臨床実習 クリニック総合診療室（3F）にて診療参加型臨床実習を行う。以下の症例数を履修のノルマとする。 （1）クラウン 1症例 （2）ブリッジ 1症例（努力目標） 担当教員の指導下で、患者対応の仕方を習得し、これらの症例を通して検査や診断の方法、治療術式等を学ぶ。 F-3-4)-(1), F-3-4)-(2), F-3-4)-(4)	會田 英紀 広瀬 由紀人 仲西 康裕 仲西 和代 山中 大寛 舞田 健夫 疋田 一洋 田村 誠 神成 克映 煙山 修平
4	後期 ◎〈診療参加型臨床実習〉 ◎〈シミュレーション実習〉 ◎〈模型実習〉 ◎〈臨床推論〉 ◎〈臨床フィードバック講義〉	● DR11を使用し、保存科で根充した模型の人工歯（Ⅰ5）をポスト形成し、コンポジットレジンと既製ポストによって支台築造を行う。その後、Ⅰ567の支台歯形成を行う。さらに、クリンシムを活用して上顎前歯の硬質レジン前装鑄造冠の支台歯形成、及び下顎小白歯の暫間被覆冠を製作する。 F-3-4)-(1)-(⑥), F-3-4)-(1)-(⑦), F-3-4)-(2)-(④) ● 橋義歯補綴学実習の〈臼歯インプラント埋入実習〉で製作した作業模型を使用して、インプラント支台のクラウンを製作する（ろう型形成まで）。 F-3-4)-(1)-(⑨), F-3-4)-(2)-(⑫) ● 臨床推論ならびに臨床フィードバック講義を行い、診療参加型臨床実習の不足を補完する。	會田 英紀 広瀬 由紀人 仲西 康裕 仲西 和代 山中 大寛 舞田 健夫 疋田 一洋 田村 誠 神成 克映 煙山 修平

【授業実施形態】
 面接授業

※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

◇ 臨床実習Ⅰで課せられた課題とケース数の総合評価（ミニマムリクワイアメントは別途提示）とする。

【教科書】

「クラウンブリッジ補綴学」第6版 矢谷 博文 ほか 編 医歯薬出版
「クラウンブリッジテクニック第2版」三浦 宏之 ほか 編 医歯薬出版株式会社
「クラウンブリッジ臨床ヒント集」越智 守生 ほか 編 クインテッセンス出版
「よくわかる口腔インプラント学」第3版 赤川 安正 ほか 編著 医歯薬出版株式会社
「口腔インプラント学実習書」公益社団法人日本口腔インプラント学会編 永末書店

【学修の準備】

- ☆ 参加型臨床実習では、症例の処置内容を事前に予習する（担当教員は処置前に学生の知識と技術进行评估し、もし、能力不足と判定された場合、学生は見学実習のみを行う）。（40分）
- ☆ シミュレーション実習では、指示された器材を必ず準備する（器材の不備が甚だしい場合は実習を中止する場合もある）。
- ☆ 模型実習では、担当教員が定めた完成期日までに履修を完了する。
- ☆ シミュレーション実習と模型実習は、その内容を教科書で予習する。（40分）
- ☆ 臨床ゼミは、受講時に教科書とノートを持参する。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1. 安全で質の高い歯科医療を提供するために必要な専門知識に基づく問題解決能力と患者ケアのための診療技能とからなる専門的実践能力、および医療・医学研究の発展のために必要な情報・科学技術の活用能力を身につけている。（専門知識に基づいた問題解決能力、患者ケアのための診療技能、情報・科学技術を生かす能力）

DP 2. 「総合的に患者・生活者を支える歯科医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を身につけている。（総合的に患者・生活者をみる姿勢、プロフェッショナリズム、コミュニケーション能力）

DP3. より安全で質の高い歯科医療を実践し社会に適応する医学を創造していくために生涯にわたって自己および他の医療者との研鑽を継続しながら医療者教育と学術・研究活動にも関与できる能力を身につけている。（科学的探究、生涯に渡ってともに学ぶ姿勢）

DP 4. 多職種（保健、医療、福祉、介護）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践できる能力を身につけている。（多職種連携能力）

DP 5. 歯科医療の専門家として、経済的な観点・地域特性を捉えた視点・国際的な視野を持ちながら活躍できる能力を身につけている。（社会における医療の役割の理解）

【実務経験】

《歯科医師》會田英紀、広瀬由紀人、仲西康裕、仲西和代、山中大寛
舞田健夫、足田一洋、田村 誠、神成克映、煙山修平

【実務経験を活かした教育内容】

クラウン・ブリッジ補綴の臨床は、歯の実質欠損や少数歯欠損により喪失または低下した機能と外観の回復・改善を図るとともに、咀嚼系の異常を予防することに関する理論と技術を研究する学問で、歯学としては特徴の多い重要な臨床学科である。したがって、根拠に基づく歯科医療学（EBM）および歯学全般にわたる幅広い知識に立脚した臨床実務を背景とした経験談が対をなすことで優れた教育成果が期待できる内容となっている。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している